

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
 担当課長名：東川 直正

事業の概要

事業名	一般国道57号 (中九州横断道路) 竹田阿蘇道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局
起終点	大分県竹田市大字会々～熊本県阿蘇市波野大字小地野			延長	22.5 km
事業概要	中九州横断道路は、大分県大分市を起点として、豊後大野市、竹田市、阿蘇市、大津町、熊本市に至る延長約120kmの地域高規格道路である。 そのうち、大分市～豊後大野市犬飼、竹田市～阿蘇市、阿蘇市～熊本市は未事業化区間となっている。				
事業の目的、必要性	本道路は、災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの形成による防災機能の強化や、走行性向上による地域産業活動の支援及び第3次救急医療施設へのアクセス性向上による地域医療活動の支援に寄与するものである。				
全体事業費	約690億円	計画交通量	約7,500～12,000台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見

【大分県知事】
 「一般国道57号（中九州横断道路）竹田阿蘇道路」事業の予算化について同意するとともに、心から感謝申し上げます。
 県といたしましても、事業が円滑に推進されるよう、沿線自治体と連携し、建設発生土の仮置場確保や処分に係る調整、インターチェンジの連結に関連する国道442号や県道穴井追萩線などのアクセス道路の整備等について対応いたします。また、当該道路整備に伴う付け替え道路（跨道橋や横断ボックスなど）の集約化に向け、本県が主体となり、沿線市町村と地元調整を行ってまいります。さらに、ストック効果を最大限発揮させるため、『道の駅竹田』や『道の駅すごう』の地域産業拠点としての利活用について、沿線自治体と連携し、主体的に検討してまいります。

【熊本県知事】
 新規事業採択時評価に係る「一般国道57号（中九州横断道路）竹田阿蘇道路」事業の予算化について同意いたします。
 県といたしましても、事業が円滑に推進されるよう、沿線自治体と連携し、工事実施に伴い発生する建設発生土の仮置場の確保や土砂処分について協力いたします。また、当該道路整備に伴う、付け替え道路（跨道橋や横断ボックスなど）等につきましても、沿線市町村と一体となり、地元調整を行って参ります。

学識経験者等の第三者委員会の意見

・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件

・費用対便益：便益が費用を上回っている。
 ・手続きの完了：計画段階評価手続き完了（H31.2）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.7 (1.3)	総費用 1,382億円 (事業費:1,285億円 維持管理費:97億円)	総便益 2,347億円 (走行時間短縮便益:2,011億円 走行経費減少便益:253億円 交通事故減少便益:83億円)	基準年 平成30年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.5 (交通量 -10%)	B/C=1.9 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=1.6 (事業費変動 +10%)	B/C=1.9 (事業費変動 -10%)		
		事業期間変動	B/C=1.5 (事業期間変動 +20%)	B/C=1.9 (事業期間変動 -20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	・注目すべき影響はない。		
		事故対策	-	・注目すべき影響はない。		
		歩行空間	-	・注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	・第3次救急医療施設へのアクセス性向上による60分圏域人口の拡大 〔竹田市における60分圏域人口カバー率〕 現況 約16,400人 (74%) → 整備後 約18,600人 (83%)		
		地域経済	◎	・走行性向上による沿線地域の産業活動を支援 〔野菜集出荷場から卸売市場までの平面線形の厳しい箇所〕 国道57号：現況 7箇所 → 整備後 0箇所 県道：現況 64箇所 → 整備後 0箇所		
		災害	◎	・国道57号の線形が厳しい箇所や防災点検要対策箇所等を回避し、災害時の救援活動等にも機能する信頼性の高い道路ネットワークを形成 〔縦断線形の厳しい箇所〕 現況 9箇所 → 整備後 0箇所 〔防災点検要対策箇所〕 現況 2箇所 → 整備後 0箇所		
環境		-	・注目すべき影響はない。			
	地域社会	-	・注目すべき影響はない。			
事業実施環境	○	・熊本県知事、大分県知事より竹田～阿蘇間の早期事業化を要望				

採択の理由

費用便益比が1.7 (1.3) と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 竹田阿蘇道路の開通により、災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの形成による防災機能の強化や、走行性向上による地域産業活動の支援及び第3次救急医療施設へのアクセス性向上による地域医療活動の支援に寄与するなど、事業の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※B/Cの上段の値は大分米良JCT(仮)～熊本北JCT(仮)を対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業箇所）

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性	
<p>本道路は、災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの形成による防災機能の強化や、走行性向上による地域産業活動の支援及び第3次救急医療施設へのアクセス性向上による地域医療活動の支援に寄与するものである。</p>	
評価項目	地域の課題
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・国道57号は、政府が定める『緊急輸送ルート』に指定され、『広域防災拠点（熊本空港、大分スポーツ公園）』を結ぶ重要な路線。 ・しかし、対象区間の現道は、縦断線形の厳しい箇所や防災点検要対策箇所が存在し、被災リスクが高い区間。 ・近年の熊本地震（H28.4）をはじめ、九州北部豪雨（H24.7）の大災害や冬季の積雪（H26.2）時には国道57号の通行止めが発生し、救援活動や日常生活等に支障をきたしている。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・竹田市は高原野菜の生産が盛んで、農業産出額は大分県内第1位。市内の野菜集出荷場のうち仕切金額が第1位の荻野菜集出荷場については約8割がトマトを占める。 ・しかし、大分市や熊本市の卸売市場までの輸送経路には、線形不良箇所が多く存在し商品の荷傷みが発生するなど、走行性が課題。
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・竹田市（約22,300人）には、第3次救急医療施設がなく住民の約3割（約5,900人）が60分以内に大分市の第3次救急医療施設へ到達できない医療空白地域であり、アクセス性向上による医療サービス水準の地域間格差の解消が必要。
その他	

事業の有効性								
<p>・当該事業の実施により、脆弱度の評価がDランク→Cランクに改善するとともに、災害時の防災機能が強化される。</p> <p>・また、本事業において、災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークの形成による防災機能の強化や、走行性向上による地域産業活動の支援及び第3次救急医療施設へのアクセス性向上による地域医療活動の支援に寄与するなど、有効性の高い事業と評価する。</p>								
道路ネットワークの防災機能	主な区間	改善ペア数	脆弱度（防災機能ランク）		累積脆弱度の変化量	改善度		評価
			整備前	整備後		通常時	災害時	
	大分分屯地	道の駅すごう	12 [10]	1.00 (D)	0.93 (C)	▲239.1 [▲105.9]	0.10 [0.06]	0.17 [0.20]

事業の効率性	
<p>・手続きの完了：計画段階評価手続き完了（H31.2）</p>	

※道路ネットワークの防災機能の上段の値は大分米良JCT(仮)～熊本北JCT(仮)を対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果